

週刊新社会

発行所：新社会党
 〒101-0051 東京都千代田区神保町2-10 三辰工業ビル3F
 TEL 03 (6380) 9960 FAX 03 (6380) 9963
 振替 00140-0-149727 1ヵ月700円 郵送料 1ヵ月164円

新社会千葉

2023年6月 248号
 発行：新社会党千葉県本部
 千葉市中央区新田町7-5 石出ビル3F
 TEL 043-244-6865 FAX 043-244-6864
 E-mail:sinsya@lily.ocn.ne.jp
 HP URL:http://shinsya-chiba.sub.jp/

新しい戦前にさせない

憲法を活かす会・千葉県協議会が憲法集会を開催



強風のなかデモ行進に出発する千葉県憲法集会に参加した人々ー千葉市内

5月6日、憲法を活かす会・千葉県協議会が主催して、千葉県憲法集会が開催されました。

主催者を代表して、共同世話人の廣瀬理夫弁護士は「政府は、昨年、安保3文書の改訂を閣議決定した。そのなかで敵基地攻撃を認める、すなわち先制攻撃を認めるという重大な政策の変更を行った。国会ではなんら議論もせず、国会終了後に行った」「国会や国民に説明する前にアメリカにこのことを約束してきた、こんなことが民主主義国家でありうるのか。これが今の日本の政治の現状である」「しかもこの安保3文書の変更と同時に軍事費GDP1%以内という歴代自民党政府さえ抑制的に守ってきた国を一瞬のうちに閣議了解一度で、2倍の2%まで増やしそれを予算化する。5年間で43兆円の軍事増強する」「岸田内閣に異議を申し立てる大きなチャンスであった、国会議員補欠選挙や地方選挙において必ずしも十分な反響ができなかった」「このような転機を迎えるなかこの集会は極めて重要な集会になる」とあいさつしました。

「憲法と人権問題」と題した講演で、ジャーナリストの安田浩一さんは「ヘイトスピーチとは、どんなに頑張っても努力しても変えることのできない属性を攻撃し差別すること」「変えることのできない属性とは人種、民族、国籍、出身地、性別、性的志向、体を持つ障がい、そうしたもので、国際的にはつきり決められている」と前置きし、戦時中に沖縄で起きたこと

差別だらけの日本

ジャーナリスト安田浩一さんが講演

や朝鮮人虐殺問題などの歴史的事実をなかつたことにしようとする動き、そして、在日コリアンに対するヘイトの実態などをいくつも紹介しました。そのようなことが日常身近に行われていることも、「多くの日本人はその痛みがわからない。今や日本はレイシスト国家になってしまった」と警鐘をならしました。

集会の後、参加者らは強風のなか千葉市内をデモ行進して、平和憲法を守ろうと道行く市民に訴えま

14回目を迎えた「かしわ市民憲法集会」が5月5日、柏市民文化会館大ホールで開催され、市民活動家、菱山南帆子さん(許すな憲法改悪・市民連絡会事務局長)が「アジアの人々と共に平和を守ろう」と題して講演を行いました。

今年の憲法集会は、岸田政権が「安全保障3文書改定」を閣議決定し、歴代政権が標榜してきた「専守防衛」

をすら投げ捨て、日本が攻撃を受ける前に相手国中枢をたたく「敵基地攻撃能力」保有を公然と言い、その為の大軍拡・増税を

知らないうちに軍事大国

かしわ市民憲法集会 菱山南帆子さんが講演

打ち出すという重大な情勢の下で開かれました。

菱山さんは「普通の若い人たちにとって朝起きてテレビつけたら

進んでいこうとしてい」と語り始めました。衆議院の憲法審査会が毎週のように開かれ、本気で9条改憲の発議、国民投票が行わ

れようとしているとして、「私たちの世論づくりがものすごく重要になっている」と強調しました。

「恐いのはSNSをや、ものをいう文芸人や作家が弾圧された1930年代と2023年が似ている」と指摘しました。

また、戦争反対と女性差別反対は表裏一体であると述べ、最も貧しい国として挙げられているアフリカのブルキナファソよりも日本はジェンダーギャップ指数(男女の差を数値化したもの)が下であることも指摘しました。

第10回 千葉市平和のための戦争展
ピースフェア2023 in 千葉
 6月14日(水)~18日(日) 10:00~17:00
 会場：Qiball(きぼーる) 千葉市中央区中央4-5-1
 ステージ：戦争体験談・紙芝居・詩の朗読・歌など
 フロア：沖縄戦証言映像・「軍都広島」「軍都千葉」展示
 パネル展示：資料・子どもたちの絵・市民団体活動紹介

週刊「新社会」
 全国版を購読しませんか

水曜日発行(月4回)
 1ヵ月700円
 郵送料168円

展望 世界は具体的に見えている。米国のタイム誌が表紙に岸田首相を載せ、電子版に「岸田首相は長年の平和主義を捨て自国を真の軍事大国にすることを望んでいる」とあったとか。国内であれこれ口先で煙に巻いても、世界は見透かしている▼軍事費GDP2%は世界第三位に躍り出るほどの巨額。22年度税収額の約17%で、2%に騙されるなされた。これで軍事大国ではなく平和国家だと言えるのか▼「もしも攻撃されたら」との議論を筆者は「もしも論」という。この危うさは、その思考線上で理屈が合えば、頭の中で際限なく「もしも」の恐怖が増殖してゆき、それが現実であるかのように思い込む。そして政治がこれに並走、最強兵器の保持欲求に収められてゆく▼昭和の時代、「何から何まで真つ暗闇よ、筋の通らぬことばかり」との歌があった。政府の異議を受けタイム誌は訂正したが、権力の闇を照らす言論機関がそれを良しとするのかだ。

